

# 地域医療連携室だより

平成 29 年 6 月

地域医療支援病院 登録医療機関数 662 件（平成 29 年 5 末現在）

こどもとご家族が充実した日々を過ごすために  
— 今、看護職員に期待されること —



看護局長 吉岡 幸

今年度の看護局目標で最重点として掲げたものは、「看護の質」を高めた看護を実践します。」というものです。この目標は、「こどもの最善の利益を考え、看護を提供します。」という看護局理念を達成するための目標の一つとなっています。看護局には、当センターでこどもとご家族が寄り添う看護がしたいという熱い思いを抱く新たな看護師 77 名を迎え、看護局内配置人員総数 541 名（常勤のみ）で満開の桜に囲まれて 4 月をスタートしました。

近年、社会において“社会保障・税の一体改革による社会保障の充実”について議論される中、日本の人口ピラミッドが話題として挙げられています。団塊の世代が 75 歳となる 2025 年には、75 歳以上が全人口の 18% へ増加となる一方、19 歳未満は全人口の 15% に減少するというもので、まさに少子高齢社会の進展が社会の喫緊の課題となっており、社会情勢を意識した看護展開が求められています。また、平成 28 年度の診療報酬改定では、地域包括ケアシステムの推進のための取組が強化され、退院指導に関する評価がなされました。

そして、退院後訪問指導料が新設されるなど、医療ニーズの高い患者が安心・安全に在宅療養に移行できるような取組が求められています。当センターが担う役割は、総合周産期医療、小児総合医療など、高度専門医療はもちろんのことですが、『入院から在宅へ』という方針のもと、こども達が家族に囲まれて社会でより良く生活できるように支援していくことは重要な役割となっています。

看護局では、平成 26 年度から局内会議に“退院支援リンクナース会議”を位置づけ、多職種と連携し、早い段階から在宅での生活を視野に入れた関りに努めています。退院時のケア指導マニュアルの整備やカンファレンスの実践を通して、日々研鑽を積んでいるところです。関わりの中で大切にしたいことは、『その時、その場を大切にすること』だと考えています。こどもやご家族にとって、時間を遡ることはできないため『今、この時』を充実したものにしたいものです。そのためには、看護職に期待される役割を自覚し、関係各方面の方々と連携を密に取り、多くのご支援をいただきながら歩んでいきたいと存じます。

## 母子保健推進室での患者・家族支援

母子保健推進室長

古塩 節子

母子保健推進室では、患者・ご家族の皆様が地域で暮らしやすいよう、行政機関と連携しながら個別および集団での支援をしています。また、母子保健を推進するために、保健医療教育関係者を対象に研修を行っています。今回は、集団での支援を2つご紹介します。

まず、ご紹介するのは、「家族教室」です。診療だけでなく、集団的効果を意図して、昭和58年から実施しています。長年、「グループ診療」として実施してきましたが、平成27年度から参加費を徴収し、「家族教室」と名称を変更して実施しています。対象疾患は、「ダウン症」「口唇口蓋裂」「未熟児」で、今年度から「血友病」も加わりました。自宅で生活している患者・ご家族が参加しています。

「家族教室」では、病気の理解を深めることはもちろん、乳幼児期の発育・発達の特徴を理解し、ご家族が安心して育児ができるよう、支援しています。医師（複数科）・歯科医師・認定遺伝カウンセラー・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・管理栄養士・臨床心理士・看護師・ソーシャルワーカー・保健師と、多職種チームで、運営します。医師の講話やコメディカルミニ講座、家族同士の交流、先輩経験者との交流の時間もあります。

家族同士の交流では、日ごろの育児での悩みや情報交換を、先輩経験者との交流では、治療後のお子さんの様子や生活を直接聞くことができます。特に「口唇口蓋裂」では、先輩経験者と手術前の不安を共有し、術後の様子を知ることができ、とても明るい先輩経験者の笑顔に勇気ももらうことができていました。交流の時間がもっとほしいと要望も毎回いただいています。専門職だけでなく、同じ病名・同じ体験をした人たちと話し合う時間は、とても貴重な時間だと思います。「自分だけではない」「みんなも頑張っている」と思えることは、孤立しがちな疾病児への子育てにも元気をもらえます。教室終了後には、連絡先を交換し合っている姿も見られ、教室参加が他の保護者につながるきっかけづくりにもなっています。普段の生活の場では、なかなか会うことのできない仲間との接点は、こども専門病院だからこそできることなのではないでしょうか。



次は、「グリーンケア」です。当センターは、総合周産期母子医療センターとして、妊娠中に地域の医療機関から紹介されて受診されている妊婦さんがほとんどです。医学の進歩で胎児診断も進み、妊娠中から出産後の治療・支援体制をとることも可能になってきました。しかし、どうしても助けられない命もあります。流産・死産・新生児死亡など、周産期にお子さんを亡くされた家族のケアの一つとして「わたぼうしの会」に平成9年から取り組んできました。

当事者が語り合う「わたぼうしの会」は、「悲しみやつらさは時間とともに薄らぐが、亡くなった子どものことを生きている子どもと同じように話せないことがつらい。子どものことを話せる場がほしい…」という母親の声から始まりました。はじめは、職員がボランティアで不定期に開催していましたが、平成12年度から年3回定期的に開催し、平成22年度から病院事業として実施しています。子どもも連れて参加ができる「わたぼうし家族の集い」も平成23年度から開催しました。グリーンケアを行うことで、家族が新たな生活に適応していく過程を支えていくことが目的です。

「わたぼうしの会」の参加者は、母親のみの方もご両親の方もいます。参加者からは、「亡くなった子が主役になれる日はわたぼうしの会と誕生日だけ。」「皆がどのように過ごしているのか知りたくて来た。」「亡くなった子に申し訳ないと思い、上の子を可愛がることができなかった。」「参加する時の気持ちが毎回違い、気持ちの変化を客観的に感じられるようになった。」などが語られています。参加されている方の気持ちを尊重し、悲しみやつらさ、周囲との関係で生じた傷ついた体験などを語り合い、お互いが批判なく受け止める時間になっています。

当センターでは、母子保健推進室以外の部署でも、小児がん、二分脊椎、心臓疾患の患者・ご家族への教室等を実施しています。診療以外でも、患者・ご家族が地域で生活していく中で、お子さんの健全な成長・発達と家族としての成長を支援していきたいと思っています。

### 病院ボランティア オレンジクラブの活動

1975年設立から、42年間こども医療センター内で、専門職ではないさりげない配慮とお手伝いを心がけ活動を続けています。現在個人と団体28グループ、350人以上が登録しています。日々の活動では、緊張や不安が和らぐよう、音楽活動、園芸、季節の飾りつけ、病棟でのお話会・本の貸出、きょうだい預かり、フラワーアレンジメント、クラウン、重心施設での活動、患者図書、縫製、手作り、手芸、病棟での遊びやイベント、盲導犬訪問、フラダンス、外来等々で、様々な活動を行っています。



ボランティアを見かけたら気軽に声をかけて下さい

## 神奈川県立こども医療センターの基本理念と基本方針

### 1 基本理念

こどもの健康の回復及び増進と福祉の向上のため、最善の医療を提供します。

### 2 わたしたちのちかい

あなたの「げんき」と「えがお」のためにみんなでちからをあわせませす。

### 3 基本方針

- (1) 患者さんの命と安全を第一に考えます。
- (2) 患者さんと家族とともに医療を行います。
- (3) 高度、先進的な医療を行うとともに、積極的に臨床研究に取り組みます。
- (4) こどもの発育、発達を考えた療養環境、教育環境を整えます。
- (5) 周産期・小児医療と保健・福祉に携わる人材育成に努めます。
- (6) 地域の関係機関と連携し、周産期・小児医療の充実、向上に貢献します。
- (7) 透明度の高い病院運営と情報公開に努めます。

## 研修のご案内

### 第29回 心臓血管外科カンファレンス

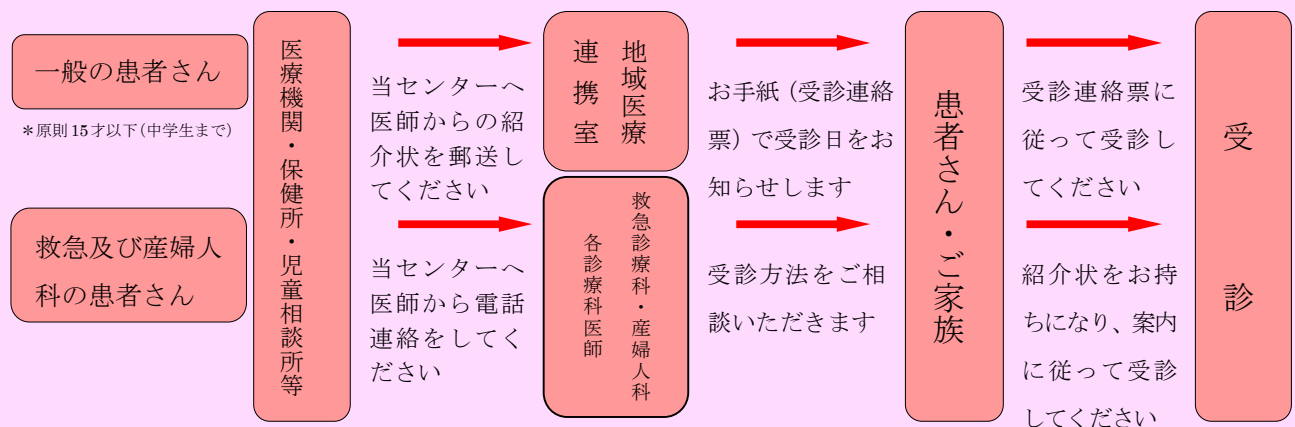
- ☆ 日時：平成29年6月30日(金)18:00~20:00
- ☆ 場所：当センター本館2階講堂
- ☆ お問い合わせ：地域医療連携室

### 第48回 循環器連携カンファレンス

- ☆ 日時：平成29年8月4日(金)18:00~20:00
- ☆ 場所：当センター本館2階講堂
- ☆ お問い合わせ：地域医療連携室

## 【紹介予約受診システム】

当センターは、医療機関や保健所等の医師からご紹介いただいた患者さん原則15才以下（中学生まで）が、初診の予約をお取りになり受診していただく「紹介予約制」を取らせていただいております。予約の方法・手続きにつきましては下記をご覧ください。



※ 紹介状の添付資料（画像やフィルム等）も紹介状と併せて事前にお送りください。

※ 紹介状用紙（料金受取人払）の送付をご希望の場合は、地域医療連携室までご連絡ください。

### 編集・発行

神奈川県立こども医療センター 地域医療連携室

〒232-8555 横浜市南区六ツ川 2-138-4 TEL 045(711)2351 FAX 045(710)1933

<http://kcmc.kanagawa-pho.jp/>